

「第五次新宿区子ども読書活動推進計画（令和2年度～令和5年度）」について

1 計画の基本的な考え方

「第五次新宿区子ども読書活動推進計画（令和2年度～令和5年度）」（以下、「第五次推進計画」という。）は「子どもの読書活動の意義」に基づき、これまでの取組状況と第四次計画の検証を踏まえて、基本目標を「自ら読書を楽しみ、学び、成長する新宿の子どもたち」とした。その達成に向けて新宿区全体で子どもの読書環境を整備し、年齢や状況に応じた読書活動への支援を充実させていく。

2 本計画の目指す方向性

基本目標「自ら読書を楽しみ、学び、成長する新宿の子どもたち」を実現するために次の3つの方向性に取り組む。

（1） 全ての子どもがあらゆる機会と場所において、自主的に読書環境ができる環境の充実

- 区立図書館や幼稚園、子ども園、保育園の読書環境の充実に取り組む。
- 学校図書館は、自由な読書活動や読書指導を行う「読書センター」機能を充実し、放課後開放を推進する。

（2） 全ての子どもに対する個々の状況に応じた読書活動の支援

- 乳幼児、小学生、中・高校生、特別な支援を要する子どもたちに発達段階等に応じた読書支援を更に推進する。
- 学校図書館は、自主的・自発的かつ協働的な学習活動を支援し、授業内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」機能の充実に図る。

（3） 子ども読書活動推進の基盤整備

- 区立図書館は、団体貸出や図書館サポーターの充実、人材育成、情報の収集・発信に取り組んでいく。
- 学校図書館は、児童・生徒や教職員の情報ニーズに対応し、情報収集・選択・活用能力を育成する「情報センター機能」の充実に図る。

3 数値目標

本計画を推進するための指標として、以下の数値目標を設定する。

（1） 読書環境の更なる充実

数値目標 1 区立図書館の子どもの貸出冊数（個人及び団体）

- ① 個人貸出 合計 523,897 冊 → 582,000 冊
- ② 区立図書館の登録者一人当たりの個人貸出冊数
 - 【小学生以下】 40.4 冊→43.0 冊
 - 【中学生】 16.4 冊→17.4 冊
 - 【高校生等】 10.9 冊→12.0 冊
- ③ 区立図書館の団体貸出冊数 64,686 冊 →70,000 冊

(2) 発達段階等に応じた読書支援の更なる推進

〔乳幼児〕

数値目標 2 絵本でふれあう子育て支援事業の読み聞かせ参加率

0歳児 88.6% → 90.0% 3歳児 92.8% → 94.0%

多くの親子に参加してもらうことで、絵本の読み聞かせによるふれあいが広がり、家庭での読書習慣を育むきっかけとなるよう乳幼児向けの指標とする。

なお、子育て家庭のライフスタイルの多様化に伴い、読み聞かせの時間を持てる家庭がある一方で、十分な時間を持ってない家庭もあるため、読み聞かせの回数増加など量的な数値目標は設定しないこととした。

多様な本の提供や読み聞かせの機会を充実し、幼い段階から様々な本と出会う環境づくりを推進することを目指す。

〔小学生〕

数値目標 3 自主的に1日30分以上、放課後等や家庭で本を読む小学生の割合

(朝読書・授業を含まない) 対象：小学校6年生 49.7%→55.0%

文部科学省の「全国学力・学習状況調査」における新宿区の数値。

学校図書館の放課後等開放や家庭読書の推進により読書習慣を身に付けられるよう、自主的に放課後や家庭で本を読む子どもの割合を指標とする。

〔中・高校生等〕

数値目標 4 区立図書館を利用したことのある中・高校生等の割合

30.2%【参考値】→35.0%

今回の「中・高校生の読書状況アンケート」では「読書が嫌い」な生徒は6.5%であった。しかしながら、区立図書館を利用したことがある生徒は約3割に留まること、本を読まない理由として「興味のある本がなかった」、「読みたい本がわからない」生徒の割合が比較的高い傾向がある。

そこで、中・高校生等向けに蔵書の充実を図るとともに、様々な本の紹介や展示や読書に関するイベントを行い、区立図書館の利用促進を図っていく。

(3) 子ども読書活動推進の基盤整備

数値目標 5 図書館サポーターの地域での読み聞かせ活動の充実

① 図書館サポーターで読み聞かせ活動をしている人数 128人→150人

② 区立図書館以外の場所で読み聞かせを行ったことのある図書館サポーター人数
18人→30人

図書館サポーターや活動場所の意見を聞きながら、地域での読み聞かせ活動の充実を目指す。